

## 事業名 阿蘇ボランティア入門塾

- [主催] 国立阿蘇青少年交流の家  
 [後援] 熊本県教育委員会  
 [期日] 令和5年6月17日(土)～6月18日(日)【1泊2日】  
 [活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家  
 [参加者] 大学生38名 高校生6名 計44名  
 [講師] 高見 大介 氏(日本文理大学)  
 薄井 良文 氏(WakuWakuOFFICE あそ Be 隊)  
 [担当職員] 阿蘇青少年交流の家3名  
 [ボランティア] 法人ボランティア3名

### 1 趣旨

- (1) ボランティア養成研修をとおして、青少年教育施設におけるボランティア活動の基礎を培い、ボランティアとしての態度や能力を育成する。
- (2) 施設職員や先輩ボランティアとの交流を通じて、青少年教育施設におけるボランティア活動の魅力に触れ、法人ボランティアとしての登録と活動への意欲を促す。
- (3) 熊本県内の県立社会教育施設と連携し、ボランティア活動の選択の幅を広げる。

### 2 目標

- (1) ボランティア入門塾の受講者全員がボランティア登録を行い、今後行われる実際の教育事業等においてボランティア活動に参加する。
- (2) ボランティア入門塾に参加者が主体的に参画し、参加者の8割が本事業に「満足」を感じる。

### 3 事業展開

- (1) 研修プログラム

1日目 6月17日(土)		2日目 6月18日(日)	
10:30～11:00	開会式	7:15～ 7:30	朝のつどい
11:00～12:00	【講義・演習】ボランティア活動の技術① (アイスブレイクの目的理解)	7:30～ 8:30	朝食
		8:30～ 9:00	宿泊室の清掃・退所点検
12:00～13:00	昼食	9:00～12:00	【講義・演習】安全管理 講師:薄井良文氏
13:00～15:00	【講義・演習】ボランティア活動の技術② (危険予知トレーニング、刃物と火の取り扱い)		12:00～13:00
15:00～15:30	休憩	13:00～15:00	【講義】青少年教育施設におけるボランティア
15:30～16:30	【講義】青少年施設の現状と運営	15:00～15:30	【講義・演習】ボランティア活動の技術④
16:30～18:00	【講義】ボランティア活動の意義 講師:高見大介氏	15:30～16:00	閉会式
		16:00～	解散
18:00～19:00	夕食・休息		
19:00～20:30	【講義】青少年教育		
20:30～21:00	【講義・演習】ボランティア活動の技術③		
21:00～22:00	入所オリエンテーション・入浴		

- (2) 活動の様子



【演習:アイスブレイクの目的理解】



【演習:危険予知トレーニング】



【演習:刃物の取り扱い】



【講義：ボランティア活動の意義】



【講義：青少年教育】



【演習：安全管理】

## 4 評価、成果と課題

### (1) 評価

#### ① 参加者の満足度（早退等のため 42 名回答）

事業全体をととしての満足度はどのくらいですか。	項目	満足	やや満足	やや不満	不満
	回答数 (人)	41	1	0	0
	割合 (%)	97.6	2.4	0.0	0.0

#### ② 参加者の声

- ・ 様々な活動を通じて、いろいろな人とコミュニケーションをとることができ、自分自身とても成長したと感ずることができた。
- ・ ボランティア活動に対して、新しい考え方がたくさん身に付いた。
- ・ 同じような志をもつ先輩ボランティアや友達、職員の方々の話を聞き、すごく大切なものを得られたと感じた。
- ・ 久しぶりにたくさんコミュニケーションをとることができた。自分のことを説明し、相手のことを知るといのはとてもよいことだと改めて感じた。

### (2) 成果

- 法人ボランティア（先輩ボランティア）が活動している姿や実際のイメージを参加者に理解してもらうよう、本事業の進行や運営等を先輩ボランティアに担ってもらった。これにより、44名の参加者全員が法人ボランティアに登録し、「ふるさとに誇りを！Seaサマーキャンプ」や「ASO一周チャレンジキャンプ」にボランティアとして参加することを希望するなど、ボランティア活動への意欲を高めることができた。
- 今後、ボランティア活動をしていく中で様々な人との関わりを持ってもらうために、固定化された班ではなく、カリキュラムごとに班構成を変え、より多くの参加者同士のコミュニケーションを持たせる工夫を行った。これにより、自分の考えを深めたり広げたりすることができた。
- 参加者が阿蘇だけでなく、様々な活躍の機会を持つことができるよう、県内の公立施設と連携し、公立施設の紹介や企画事業、ボランティア活動に関する内容について施設職員からの説明の時間を設けた。今後、阿蘇にのみならず県内公立施設におけるボランティア活動につながる機会を提供することができた。

### (3) 課題

- 所定のカリキュラムを行うには、1泊2日のスケジュールではタイトであり、もっと休憩がほしいと感じている参加者もいた。交通機関の関係もあるので、次年度においては、実施期間を2泊3日にしたり、参加者送迎による時間の確保をしたりするなど検討が必要である。